

三宅島

概況(平成15年9月)

火山活動は全体として低下傾向にあります。

山頂火口からの二酸化硫黄の放出量は、長期的には減少傾向にあります。今年に入ってから低下の割合が緩慢になっています。火山性地震の活動に大きな変化はありませんが、連続的に発生している火山性微動の振幅は小さくなっています。観測開始以来続いていた三宅島の収縮を示す地殻変動は、収まっています。

現在でも局所的に高い二酸化硫黄濃度が観測されることもありますので、風下に当たる地区では引き続き火山ガスに対する警戒が必要です。また、雨による泥流にも引き続き注意が必要です。

表1 火山情報発表状況

火山情報名	発表日時	概要
火山観測情報第484号 (1日2回発表)	1日 09:30	噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・ 地殻変動の状況、上空からの観測結果、 及び上空の風・火山ガスの移動予想
火山観測情報第543号	30日 16:30	

火山ガス噴出活動及び火口内の温度の状況

9月に実施した二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果は次のとおりです。

(表2、図1)

表2 二酸化硫黄の放出量と火口内最高温度の観測結果

観測実施日	二酸化硫黄放出量(日量)	火口内最高温度	協力機関
9月16日	7,500トン 5,500トン	190	警視庁
9月30日	3,400トン 4,300トン 6,400トン 4,200トン	215	航空自衛隊

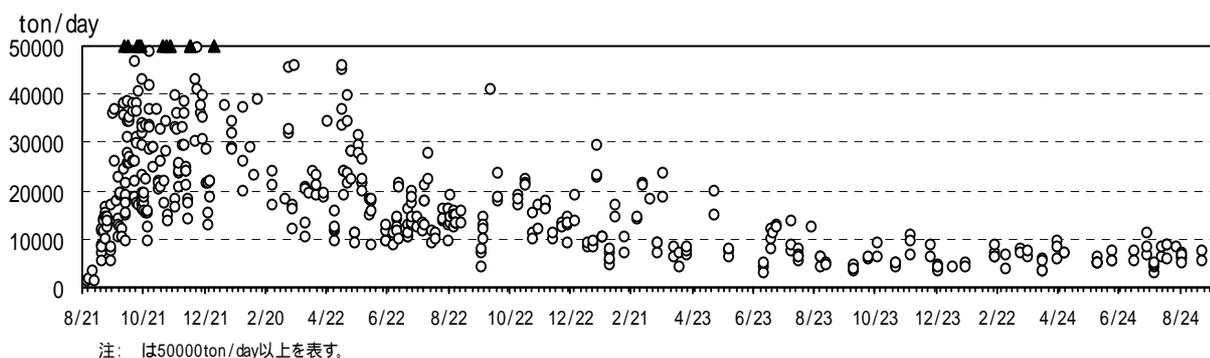


図1 二酸化硫黄放出量(2000年8月26日~2003年9月30日)

噴煙活動の状況

依然として活発な状態が続いています。

今期間、有色噴煙は確認していません。

白色の噴煙は連続的に噴出しており、高さの最高は火口上900m(15日)でした。(図2)

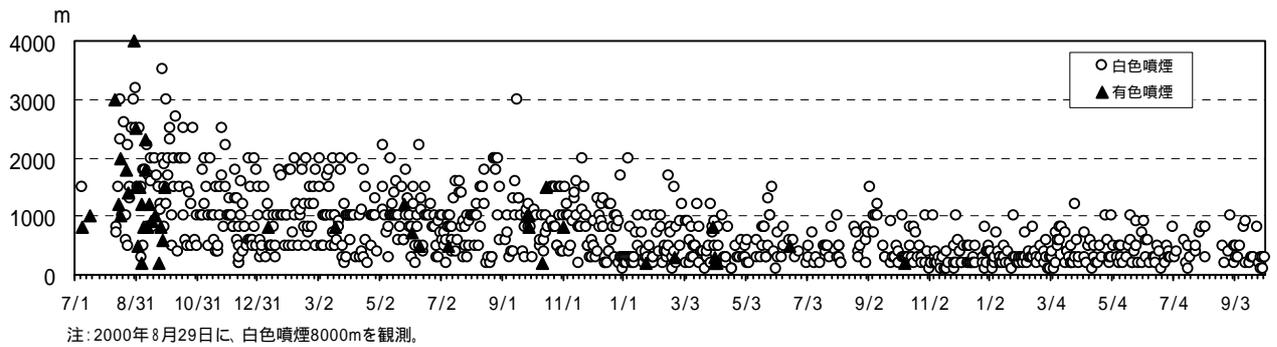


図2 日最大噴煙高度(2000年7月8日～2003年9月30日)

地震活動の状況

山頂直下の地震活動は、やや低周波地震の回数が4月から増加し、今月もやや多い状態が続いています。高周波地震と低周波地震の活動は低い状態が続いています。（表3、図3）

表3 火山性地震日別回数表（三宅島）

上旬	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	旬計	
高周波地震	1	2	2	0	1	2	1	0	0	2	11	
やや低周波地震	6	5	23	12	23	17	6	4	4	21	121	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中旬	11日	12日	13日	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日	旬計	
高周波地震	0	3	1	1	0	2	4	3	1	0	15	
やや低周波地震	7	34	24	39	7	13	20	23	20	18	205	
低周波地震	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
下旬	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日	旬計	月計
高周波地震	1	1	1	0	2	2	0	0	0	0	7	33
やや低周波地震	8	10	16	14	25	19	15	0	0	0	107	433
低周波地震	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1

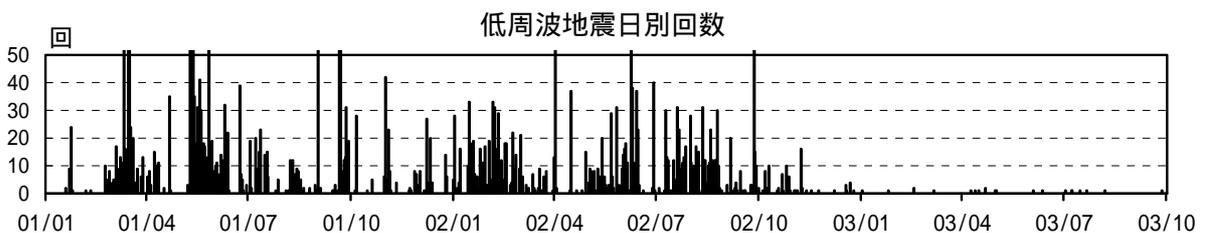
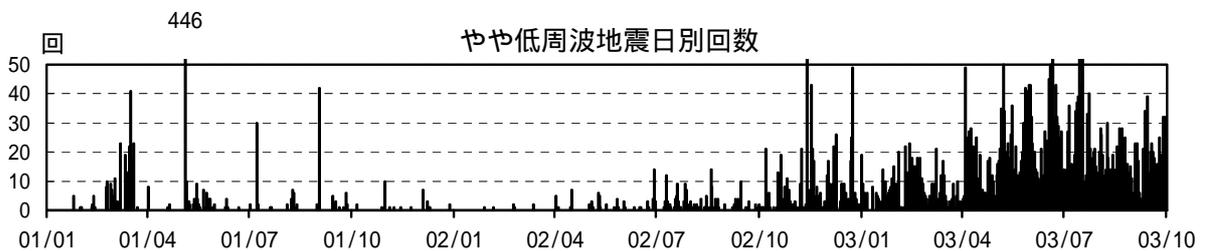
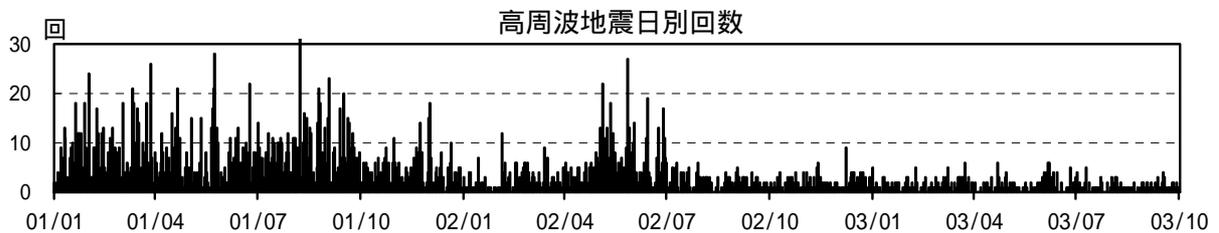


図3 火山性地震活動経過図（2001年1月1日～2003年9月30日）

火山ガスの放出活動と関連があると考えられている連続微動の振幅は、長期的には低下傾向にあり、7月末には観測できないレベルまで落ち込みましたが、8月半ばよりやや増大しました(図4)。1日から2日にかけて、連続微動の振幅が10~20分間隔で一時的に増大する現象が観測されましたが、それに伴った噴煙、地震等、他のデータの変化は見られませんでした。

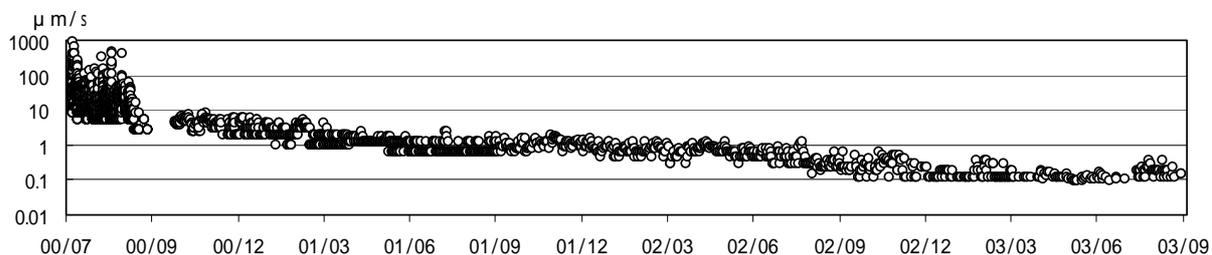


図4 連続微動の振幅(2000年7月7日~2003年9月30日)

地殻変動の状況

GPS観測によると、三宅島の収縮を示す地殻変動は、次第に小さくなり、2002年夏ごろからは、その傾向が収まっています(図5)。

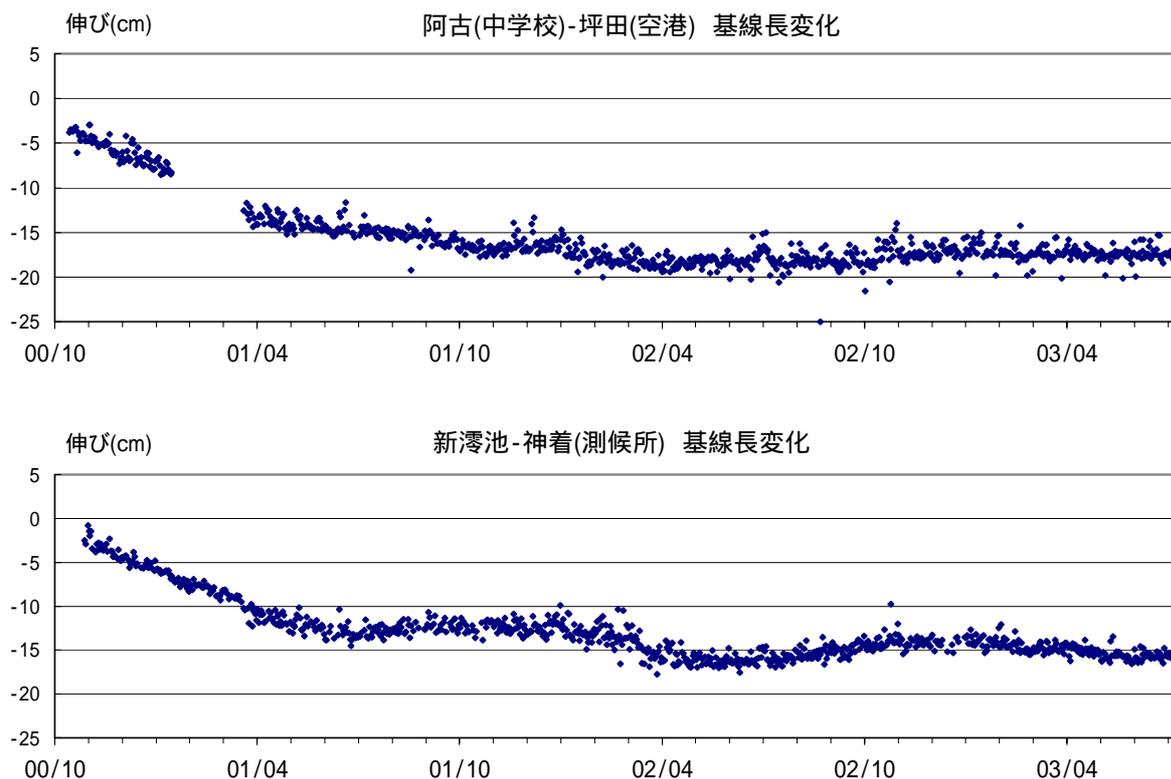


図5 三宅島GPS観測結果 (2000年10月1日~2003年9月30日)

